

2025年3月期第2四半期（中間期） 決算説明会

2024年11月7日



東証プライム 7537

© 2024 MARUBUN CORPORATION

みなさん、こんにちは。

丸文株式会社 代表取締役社長の飯野亨です。

皆様方には、日頃より大変お世話になり、厚く御礼申し上げます。

それでは、当社2025年3月期 中間期決算の概要、今期の業績予想、および中期経営計画「丸文Nextage 2024」の取り組み状況についてご説明いたします。

アジェンダ

1. 2025年3月期中間期 連結決算の概要

2. 2025年3月期 業績予想の概要

3. 株主還元

4. 中期経営計画の取り組み状況

5. 参考資料

本日で説明いたしますアジェンダはご覧の通りです。

2025年3月期中間期 連結決算の概要

2025年3月期中間期 決算サマリ

(百万円)	2024年3月期 中間期		2025年3月期 中間期			前年 同期比	予想比
	実績	売上比	予想 (5/10)	実績	売上比		
売上高	123,729	—	99,000	98,583	—	△25,146 (△20.3%)	△417 (△0.4%)
売上総利益	15,254	12.3%	11,300	12,513	12.7%	△2,741 (△18.0%)	+1,213 (+10.7%)
販管費	7,911	6.4%	8,500	8,141	8.3%	+230 (+2.9%)	△359 (△4.2%)
営業利益	7,342	5.9%	2,800	4,372	4.4%	△2,970 (△40.5%)	+1,572 (+56.2%)
経常利益	2,080	1.7%	1,050	3,125	3.2%	+1,045 (+50.3%)	+2,075 (+197.7%)
親会社株主に 帰属する 中間純利益	1,137	0.9%	545	2,143	2.2%	+1,006 (+88.4%)	+1,598 (+293.2%)

- ▶ 売上高は、民生機器向け半導体をはじめとした全般的な需要の低下により減収
- ▶ 売上総利益は、前年同期比では減少。予想比では円安進行による円換算ベースでの押し上げ効果により増益
- ▶ 中間期末に向けた円高進行に伴う為替差益（6億円）の計上により、経常利益・中間純利益ともに増益

はじめに、2025年3月期中間期の業績についてですが、売上高は前期比251億円減少の985億円となりました。これは主に民生機器向け半導体をはじめとした全般的な需要の低下によるものです。また前年同期にはスポットの大型案件や期スレ案件があったため、その反動減により減少したことも減収の要因となりました。

売上総利益は売上の減少に伴い、27億円減少の125億円、営業利益は29億円減少の43億円となりました。

一方で、経常利益は10億円増加の31億円、中間純利益も10億円増の21億円となりました。これは前期には為替差損34億円を計上しましたが、今中間期では期中における円安進行が、中間期末に向けては一旦急速に円高方向に転換したことにより、中間期末時点で外貨建て負債の決済及び評価差益を計上したことによりです。

なお、期初の業績予想と比較しますと、売上は予想値に比べ、4億円の減少、営業利益は15億円の増加、経常利益は20億円の増加、中間純利益は15億円の増加となりました。営業利益と経常利益が想定を大幅に上回ったのは、期中の円安進行による円換算ベースでの売上総利益の押し上げ効果が約10億円あったこと、為替差益として6億円を計上したことが主要因です。

2025年3月期中間期 事業別業績サマリ

■ デバイス事業

(百万円)	2024年3月期 中間期	2025年3月期 中間期	前年同期比
売上高	99,352	74,817	△24,534 (△24.7%)

▶ 民生機器・PC周辺機器・自動車向け半導体が減少

■ システム事業

(百万円)	2024年3月期 中間期	2025年3月期 中間期	前年同期比
売上高	23,538	22,807	△730 (△3.1%)

▶ 医用機器が減少

■ ソリューション事業

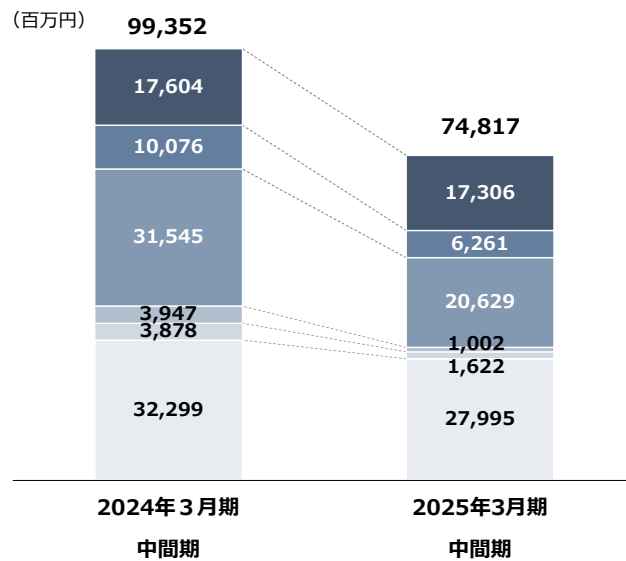
(百万円)	2024年3月期 中間期	2025年3月期 中間期	前年同期比
売上高	838	957	+118 (+14.2%)

▶ ICTソリューションが増加

各事業の売上サマリはご覧の通りです。

デバイス事業は前期比245億円減少の748億円、システム事業は7億円減少の228億円、ソリューション事業は1億円増加の9億円となりました。

2025年3月期中間期『デバイス事業』品目別売上高



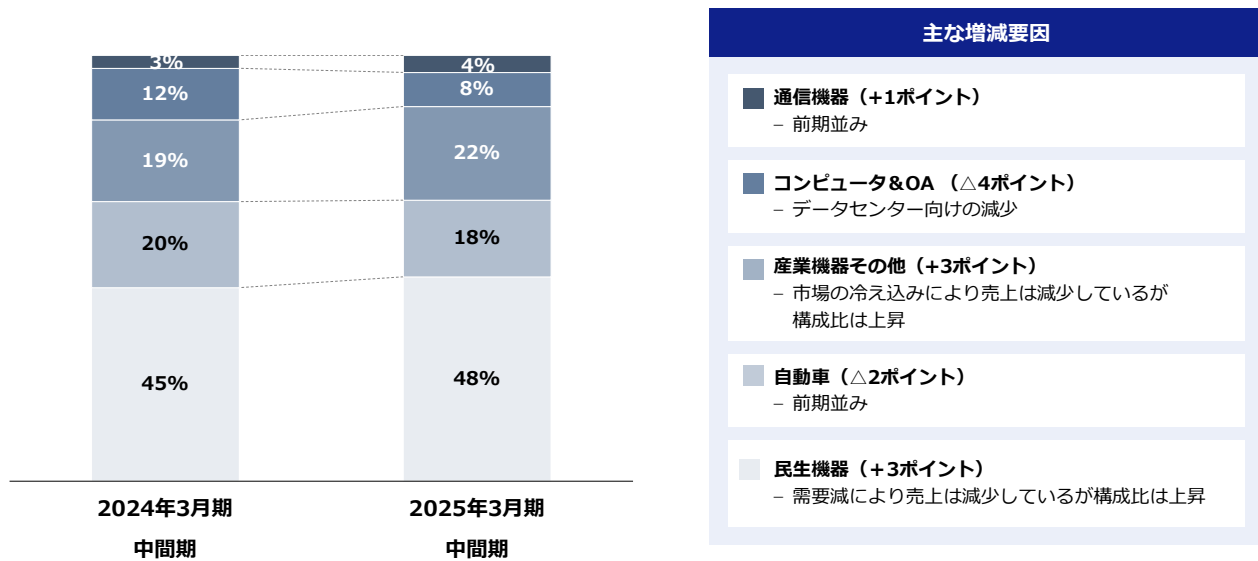
主な増減要因	
■ 電子部品 (△298)	- 前期並み
■ カスタムIC (△3,815)	- PC周辺機器向けの減少
■ 特定用途IC (△10,916)	- 民生機器向けの減少
■ マイクロプロセッサ (△2,945)	- 自動車向けの減少
■ メモリーIC (△2,256)	- 自動車向けの減少
■ アナログIC (△4,304)	- PC周辺機器向けの減少

デバイス事業の売上を、品目別・用途別に増減幅の大きいものについてご説明いたします。

品目別では、半導体の各品目の売上が減少しました。全般的に売上が減少しておりますが、特に特定用途ICが大きく減少しています。これは民生機器向けの需要減によるものです。

またアナログICとカスタムICはPC周辺機器向け、マイクロプロセッサは自動車向けがそれぞれ減少しました。

2025年3月期中間期『デバイス事業』用途別構成比

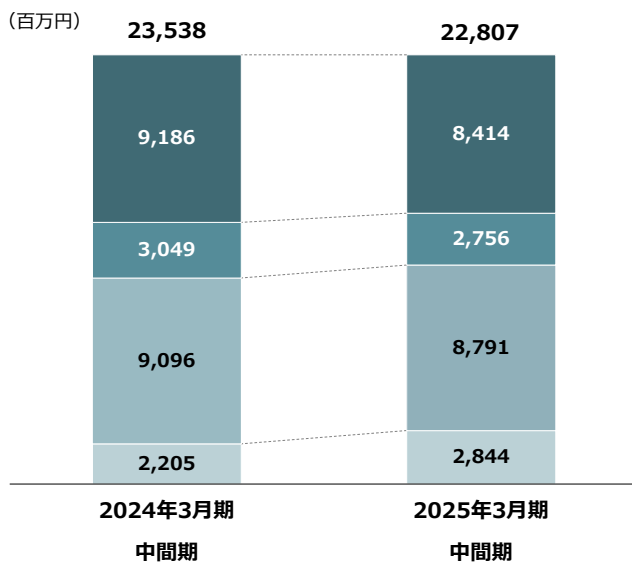


次に用途別の売上構成比についてですが、一番下の民生機器と中段の産業機器は3ポイントアップ、コンピュータ&OAが4ポイントダウンとなっています。

民生機器向けは、構成比は上昇していますが売上高は減少しています。産業機器向けも市場の冷え込みの影響を受けて在庫調整が長期化しております。

2025年3月期中間期『システム事業』品目別売上高

(百万円)



主な増減要因

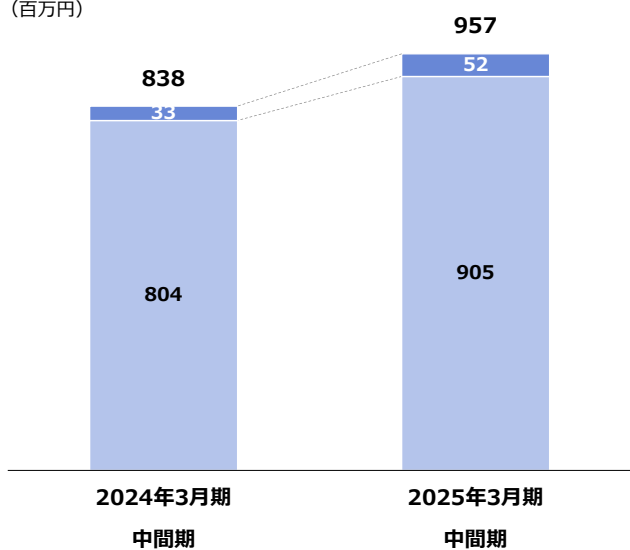
- 医用機器 (△772)
－ 放射線治療装置の減少
- レーザ機器 (△293)
－ 光源部品の減少
- 産業機器 (△305)
－ 電子部品組立検査解析装置の減少
- 航空宇宙機器 (+639)
－ 衛星通信関連装置の増加

システム事業については、防衛・宇宙関連市場の拡大を背景に一番下の航空宇宙機器の売上が伸長しました。

一方、産業機器は設備投資抑制の影響を受けて減少し、医用機器も前年同期において大型案件の寄与があったことの反動減や、一部案件が下期に期ズレしたことにより前期を下回る結果となりました。

2025年3月期中間期『ソリューション事業』品目別売上高

(百万円)



主な増減要因

- AI・ロボティクス (+19)
- 前期並み
- ICTソリューション (+101)
- 時刻同期システムの増加

ソリューション事業については、ICTソリューションで時刻同期システムが増加しました。
AI・ロボティクスは前期並みとなりました。

2025年3月期中間期 貸借対照表の概要

(百万円)	2024年3月期末	2024年9月末	前期末比
資産合計	174,120	173,835	△284
流動資産	162,616	160,720	△1,895
現金及び預金	23,823	21,333	△2,489
受取手形及び売掛金	50,855	40,888	△9,967
商品及び製品	51,316	48,150	△3,166
未収入金	34,847	47,878	+13,031
固定資産	11,504	13,114	+1,610
負債合計	117,687	114,821	△2,866
流動負債	116,669	113,973	△2,695
支払手形及び買掛金	28,243	24,275	△3,967
短期借入金	59,507	54,528	△4,979
未払金	19,027	24,913	+5,886
固定負債	1,018	847	△170
純資産合計	56,433	59,014	+2,581

* 流動資産と流動負債は主要項目のみ記載しております

▶ 総資産は、前期末から2億円減少

▶ 資産の部は、売上減少に伴い受取手形及び売掛金が99億円減少、デバイス事業の代理人取引が増加したことにより未収入金が130億円増加

▶ 負債の部は、運転資金需要の減少に伴い短期借入金が49億円減少、未払金は58億円増加

次に貸借対照表の概要をご説明いたします。

総資産は1,738億円となり、前期末に比べ2億円の減少となりました。

変動が大きかったのは、受取手形及び売掛金、未収入金の2項目です。

受取手形及び売掛金は、前期末と比較して売上高が減少したことによるものです。

また負債項目につきましては、運転資金需要の減少に伴い短期借入金が減少する一方で、未払金が増加しました。

純資産は、当期純利益の積み増しにより増加しています。

<参考> 為替差損益発生メカニズム

▶ I. 当社の為替変動リスクへの対応方針

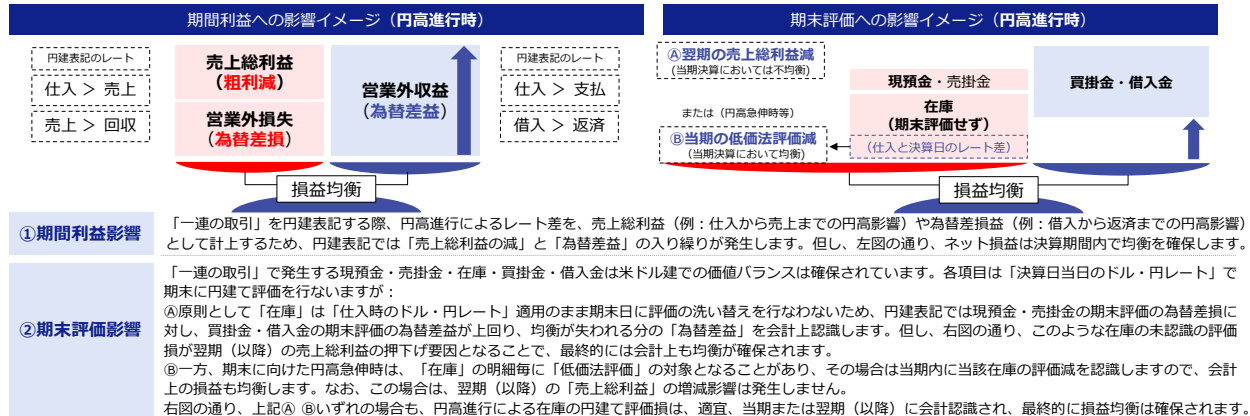
*詳細は当社ウェブサイトよりご確認できます

・仕入の大半が米ドル建のため、米ドル建売上は円を介さない「ナチュラルヘッジ」、円建売上は「為替予約ヘッジ」を実施

① 米ドル建売上 仕入～売上・回収の「一連の取引」の条件および対応する資産・負債を米ドル建とし、米ドル建利益を確保

② 円建売上 仕入債務に対する為替予約を取引明細毎に行い、取引毎の円建の利益を確保

▶ II. ナチュラルヘッジ（米ドル仕入～米ドル売上取引）における為替変動の影響



ここで改めて当社の為替差損益発生メカニズムについてご説明いたします。

当社は、取引の大半を占めるドル仕入れドル売りの取引については原則として「ナチュラルヘッジ」、ドル仕入れ円売りの取引は「為替予約ヘッジ」を行い、為替変動リスクに対応しております。

「ナチュラルヘッジ」では、ドルベースでの利益は確保しておりますが、日本の会計基準においては取引ごとに円換算する必要があるため、売上総利益と為替差損益の間で入り繰りや、円換算時の資産と負債に不均衡が生じます。

今中間期は為替差益を計上しましたが、これは中間期末に向けて円高方向に転じたことによりこの入り繰りが生じたこと、また原則として在庫は期末の評価替えを行わないため、円換算時の資産と負債に不均衡が発生したことによるものです。

当社の為替差損益の発生メカニズムについての詳細説明は、当社ウェブサイトをご覧ください。

2025年3月期 業績予想の概要

2025年3月期 業績予想サマリ

(百万円)	2024年3月期		2025年3月期			前期比	期初 予想比
	実績	売上比	期初予想	修正予想	売上比		
売上高	236,490	—	212,000	210,000	—	△26,490 (△11.1%)	△2,000 (△0.9%)
売上総利益	29,607	12.5%	25,600	25,700	12.2%	△3,907 (△13.2%)	+100 (+0.4%)
販管費	16,623	7.0%	17,000	16,650	7.9%	+27 (+0.2%)	△350 (△2.1%)
営業利益	12,984	5.5%	8,600	9,050	4.3%	△3,934 (△30.3%)	+450 (+5.2%)
経常利益	5,627	2.4%	5,000	6,000	2.9%	+373 (+6.6%)	+1,000 (+20.0%)
親会社株主に 帰属する 当期純利益	3,401	1.4%	3,000	4,150	2.0%	+749 (+22.0%)	+1,150 (+38.3%)

* 2024年度下期想定為替レート：145円/ドル

- ▶ 5月10日に公表した業績予想を修正
- ▶ 売上高は、デバイス事業とシステム事業の需要低下を受け、期初予想を下回る見通し
- ▶ 営業利益は、円安進行に伴う円換算ベースでの売上総利益の押し上げ効果により、期初予想を上回る見込み
- ▶ 経常利益は、今中間期に為替差益（6億円）を計上したことにより、期初予想を上回る見込み



続きまして、2025年3月期の業績予想についてご説明いたします。

当社は中間期までの業績の進捗状況を踏まえ、別途、開示いたしましたとおり、通期業績予想を修正いたしました。今回の修正により、売上高はデバイス事業とシステム事業の需要低下を受け、期初予想に比べ20億円下回り2,100億円となる見込みです。一方で、営業利益は円安進行に伴う円換算ベースでの売上総利益の押し上げ効果により、期初予想値よりも4億円上回り90億円となる見通しです。また経常利益は今中間期に為替差益を計上したことにより10億円上回り60億円、当期純利益も11億円上回り41億円となる見通しです。

これを前年対比で見ますと、売上高は、前期比264億円減、売上総利益は39億円減、営業利益は39億円減となります。一方、経常利益は、前期に為替差損34億円を計上したのに対し、今期は中間期時点で為替差益6億円の計上となったため3億円増、当期純利益は7億円増となります。

なお、2024年度の下期想定為替レートは、1ドル145円に設定しております。

2025年3月期 事業別業績予想サマリ

■ デバイス事業

(百万円)	2024年3月期 実績	2025年3月期 予想	前期比
売上高	179,011	149,200	△29,811 (△16.7%)

▶ 上期に続き、民生機器・PC周辺機器・自動車向け半導体の減少を見込む

■ システム事業

(百万円)	2024年3月期 実績	2025年3月期 予想	前期比
売上高	54,941	57,800	+2,859 (+5.2%)

▶ 上期は医用機器が減少したが航空宇宙機器・レーザー機器の増加を見込む

■ ソリューション事業

(百万円)	2024年3月期 実績	2025年3月期 予想	前期比
売上高	2,536	3,000	+464 (+18.3%)

▶ AIロボティクスの立ち上げが遅れたがICTソリューションの増加を見込む



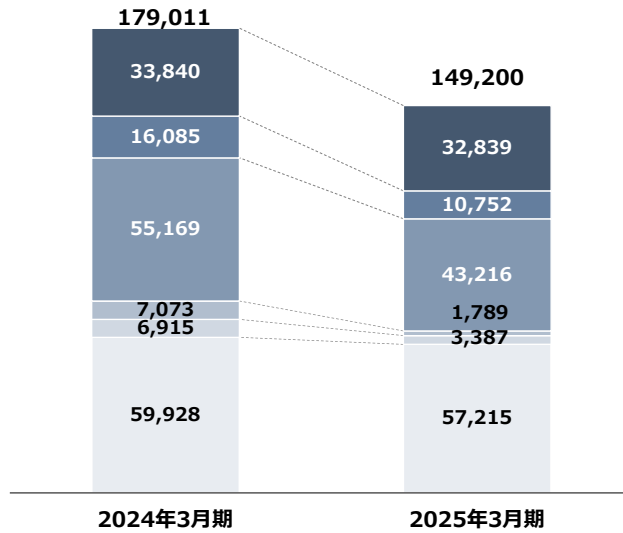
セグメント別売上高のサマリはご覧のとおりです。

デバイス事業は上期に続き、民生機器・PC周辺機器・自動車向け半導体の減少を見込み、前期比298億円減の1,492億円を見込んでおります。システム事業は、上期に医用機器が減少したものの航空宇宙機器・レーザー機器の増加を見込み、前期比28億円増の578億円、ソリューション事業はAIロボティクスの立ち上げが遅れましたがICTソリューションの増加を見込み、前期比

4 億円増の30億円を見込んでおります。

2025年3月期 『デバイス事業』 品目別売上高予想

(百万円)



主な増減要因

- 電子部品 (△1,001)
- 前年度並み
- カスタムIC (△5,333)
- PC周辺機器向けの減少
- 特定用途IC (△11,953)
- 民生機器向けの減少
- マイクロプロセッサ (△5,284)
- 自動車向けの減少
- メモリーIC (△3,528)
- 自動車向けの減少
- アナログIC (△2,713)
- 民生機器、PC周辺機器向けの減少

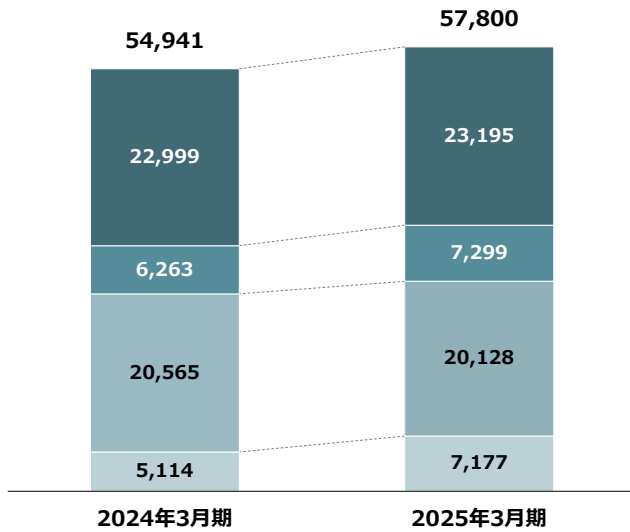
品目別の見通しですが、デバイス事業は、全体では自動車市場のドライバー役であった電気自動車の成長鈍化や、中国経済の停滞などによる産業市場をはじめとした各市場での在庫調整の長期化により、半導体・電子部品の各品目ともに減少の見通しです。

品目別では、上から3番目の特定用途ICが民生機器向けで大幅に減少する見通しです。

またカスタムICはPC周辺機器向け、マイクロプロセッサは自動車向けがそれぞれ減少する見通しです。

2025年3月期 『システム事業』 品目別売上高予想

(百万円)



主な増減要因

- 医用機器 (+196)**
- 前年度並み
- レーザー機器 (+1,036)**
- 半導体レーザー、レーザー加工装置の増加
- 産業機器 (△437)**
- 前年度並み
- 航空宇宙機器 (+2,063)**
- 宇宙関連部品の増加

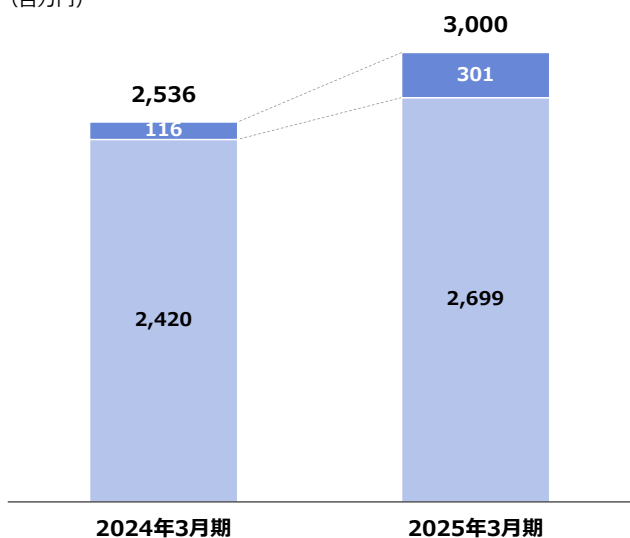
システム事業では、活況な市場環境を背景に、航空宇宙機器で宇宙用途の高信頼性部品や防衛関連商材の伸長を見込んでおります。

またレーザー機器では、半導体レーザーや圧着接合加工装置などの需要増を見込んでおります。

一方、産業機器は調整局面が続いており前期よりも減少、医用機器も前期並みにとどまる見通しです。

2025年3月期 『ソリューション事業』 品目別売上高予想

(百万円)



主な増減要因

- AI・ロボティクス (+185)
 - AI搭載ロボットの増加
- ICTソリューション (+279)
 - 時刻同期システムの増加

ソリューション事業では、ICTソリューション分野が時刻同期システムの需要増により増加する見通しです。

AI・ロボティクスの分野は、今期より取り扱いを開始したAI搭載のコミュニケーションロボットやデジタルヘルスケア商材の販売増を見込んでおります。

以上、2025年3月期の業績および今期の業績予想をご説明いたしました。

株主還元

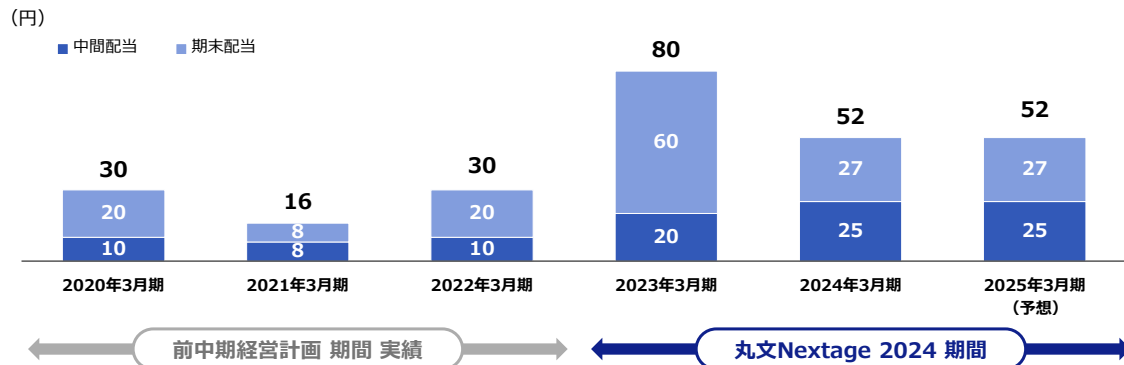
株主還元

配当方針

連結配当性向40%またはDOE（株主資本配当率）2.5%のいずれか高い方を目安に、継続的かつ安定的な配当を実施することを基本方針とする

2025年3月期の配当

2025年3月期の配当：中間 25円、期末27円の年間52円配当を予定
配当性向：32.8%、DOE（株主資本配当率）：2.6%



続きまして株主還元についてご説明いたします。

当社は昨年11月に配当方針を見直し、連結配当性向40%またはDOE2.5%のいずれか高い方を目安に、継続的かつ安定的な配当を実施することを基本方針としました。

2025年3月期の配当は中間25円、期末27円、年間で52円の配当を予定しております。

配当性向32.8%、DOEは2.6%となる見込みですが、今後の業績の進捗に応じ、期末配当を見直してまいります。

中期経営計画の取り組み状況

中期経営計画「丸文 Nextage 2024」

- ▶ 3つの事業成長方針とともに、サステナビリティへの取り組み、事業基盤整備と内部プロセスの改善を推進

『丸文Nextage2024』基本方針



2024年度 財務目標

経常利益 **60** 億円以上 ROE **8%** 以上の確保

続きまして、中期経営計画の取り組み状況についてご説明いたします。

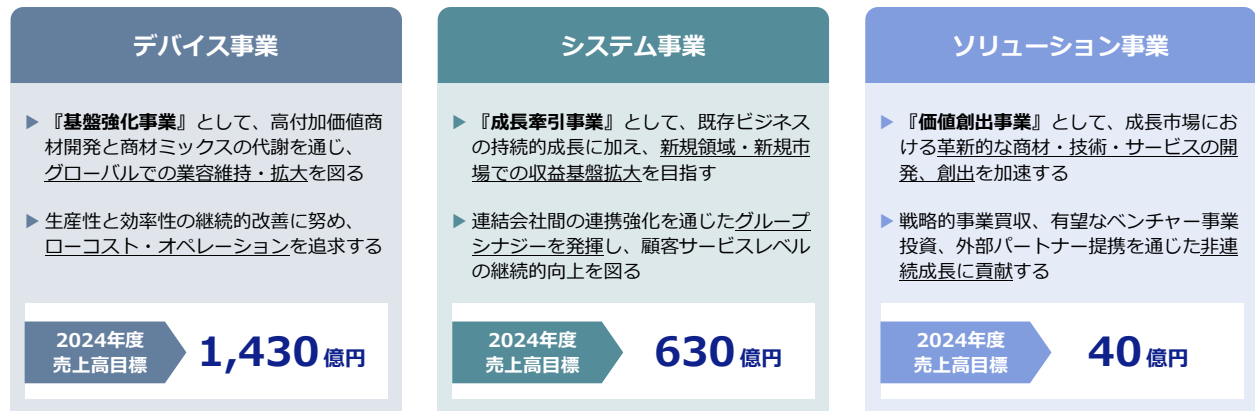
当社の中期経営計画「丸文 Nextage 2024」は、2022年度にスタートし、今期が最終年度となります。

「丸文 Nextage 2024」では、5つの基本方針、すなわち、「サステナビリティ経営の推進」、「新たな事業領域への進出と成長基盤の構築」、「既存事業の『選択と集中』の促進とソリューション開発強化」、「グループ経営の強化」および「業務基盤の整備と内部プロセスの改善」を掲げ、計画最終年度、つまり今期の経常利益60億円、ROE8.0%以上の達成を目標としてまいりました。

さきほどご説明いたしました2025年3月期の業績予想の通り、現時点では中期経営計画の財務目標は達成できる見通しとなっております。

各事業の成長戦略

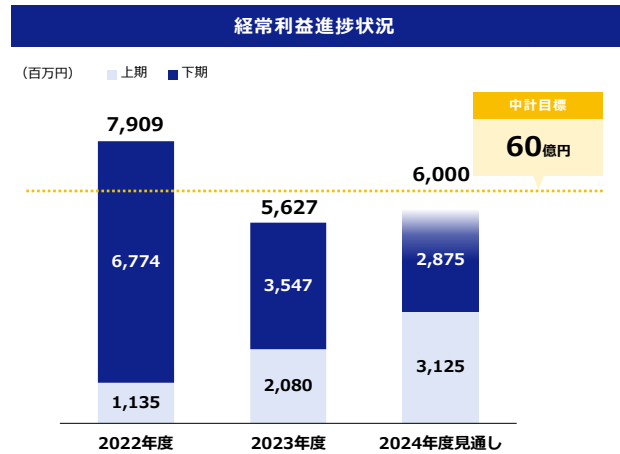
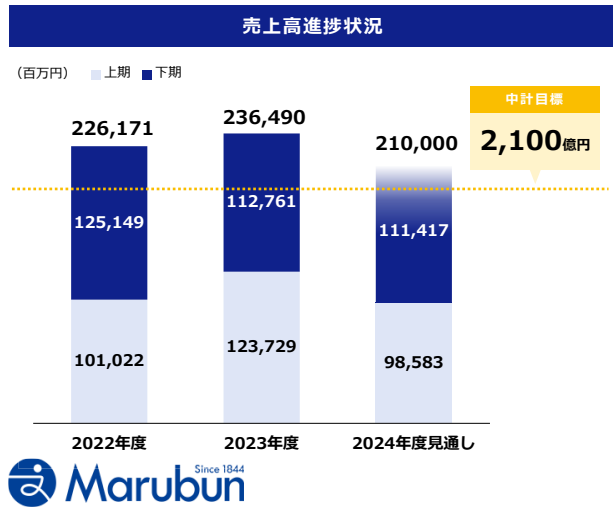
▶ 各事業セグメントの取り組みを推進しつつ、事業セグメント間のシナジー創出を追求



当社グループの3事業セグメントの成長戦略と売上目標はご覧の通りです。

これまでの進捗状況と2024年度の見通し

- ▶ 中期経営計画の売上高目標はシステム事業、ソリューション事業で未達の見込みだが、デバイス事業がこれを補完する形で達成する見込み
- ▶ 経常利益もドル金利上昇の影響を大きく受けているが、目標は達成の見通し



当中期経営計画期間の売上、経常利益の推移はご覧の通りです。

売上高はシステム事業、ソリューション事業で未達の見込みですが、デバイス事業がこれを補完する形で結果として中期経営計画の目標を達成する見込みです。経常利益についても目標値を達成する見通しで、成長戦略に基づく取り組みを促進し、さらなる利益の積み上げを図っていきたいと考えております。

『デバイス事業』の総括と取り組み状況

2024年度の中間期総括と通期見通し

- ▶ 売上高は前年度下期から産業機器を中心に在庫調整の局面が継続
- ▶ 今年度の売上高は2023年度を下回るものの、中計目標は上回る見込み

取り組み状況

- ▶ 広範な顧客層への拡販施策として説明会の開催や各種のキャンペーンの実施、積極的な情報・資料提供を展開
- ▶ 販売パートナーとの協働により引き合い件数が増加
- ▶ 高付加価値のFPGA*等の拡販で、案件獲得が進む

*Field Programmable Gate Arrayの略で、プログラム書き換えが可能なIC

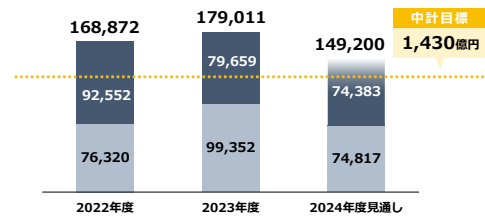
課題と対応策

- ▶ 市場停滞を背景に、一部在庫の積み上げが発生
 - ・ 在庫削減や発注コントロールを徹底し、需給に応じた在庫水準を維持



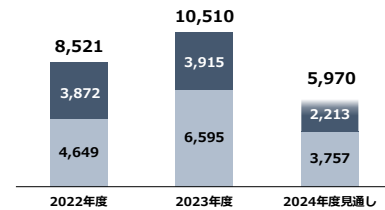
売上高推移

(百万円) ■ 上期 ■ 下期



営業利益推移

(百万円) ■ 上期 ■ 下期



© 2024 MARUBUN CORPORATION

23

事業セグメント別に進捗状況と見通しをご説明いたします。なお事業セグメント別の利益については費用調整の関係もあり、営業利益を記載しております。

デバイス事業は、前年度下期より在庫調整の局面が続いており、今年度は前期比で減収となる見通しです。但し、中期経営計画の売上目標は上回る見込みで、営業利益も59億円を確保する見通しです。

施策の取り組み状況ですが、昨年度から、より広範な顧客層への拡販施策として説明会の開催や、各種のキャンペーンの実施、積極的な情報・資料提供を展開しており、販売パートナーを経由した引き合い件数も増加しております。

新たな商権の獲得、高付加価値のFPGAなどの集積回路やSiC（シリコンカーバイド）モジュール商材の案件獲得も進んでおります。

一方で課題としましては、市場停滞を背景に一部在庫の積み上げがあります。在庫削減、発注コントロールを徹底し、需給に応じた在庫水準を維持しつつ、利益の創出を図ってまいります。

『システム事業』の総括と取り組み状況

2024年度の中間期総括と通期見通し

- ▶ 防衛・宇宙予算の拡大に伴い、航空宇宙分野の売上が伸長
- ▶ 産業機器分野は設備投資の抑制や案件の後ろ倒しにより厳しい状況
- ▶ 下期においても同様の傾向が続く見込みで、中計目標は未達の見通し

取り組み状況

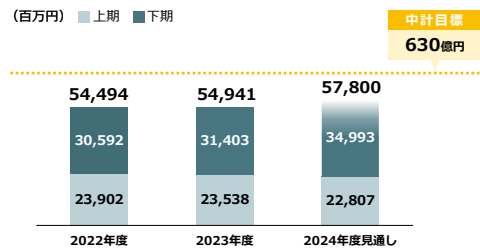
- ▶ 持続的な成長が見込める防衛・宇宙関連事業に注力するため、組織体制を再編成
 - ・ 高信頼性部品やアンテナシステムの提案活動を実施
- ▶ 産業機器やレーザー機器分野では海外での販路拡大を推進

課題と対応策

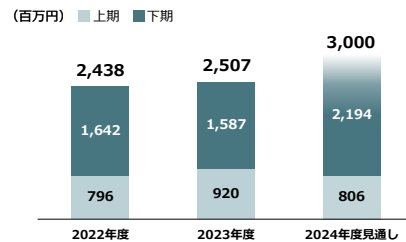
- ▶ 新規領域拡大への取り組みの強化
 - ・ 商材の拡充、パートナーとの更なるアライアンス強化
- ▶ グループシナジーの発揮
 - ・ 技術力を活かした連携の強化



売上高推移



営業利益推移



© 2024 MARUBUN CORPORATION

24

次にシステム事業ですが、日本の防衛・宇宙予算の増額および予算の執行が進んでいることを背景に、航空宇宙機器の売上が伸長しています。

一方で、設備投資抑制の影響を受け産業機器は厳しい状態が続いております。この傾向は下期においても継続するとみており、中期経営計画で掲げた売上目標は未達、営業利益も30億円にとどまる見通しです。

中間期における取り組み状況では、中長期的な成長が見込める防衛・宇宙分野を強化するために組織体制を再編成し、人工衛星やロケットに使用される高信頼性部品と、衛星と地上との通信需要の増大に対応するアンテナシステム等の提案活動を推進しました。

また産業機器やレーザー機器分野では海外での販路拡大に取り組みました。

東南アジアにおいては、大気圧プラズマ装置などで販売実績も積み重ねつつありますが、収益化にはもう少し時間を要する見込みです。現在は、東南アジアに加え、インド・メキシコ地域で、現地のパートナーとアライアンスを組み、拡販を進めております。

今後も商材の拡充やパートナーとの更なるアライアンス強化に取り組むとともに、グループ企業の技術力を結集し、成長牽引に向けた活動を着実に進行してまいります。

『ソリューション事業』の総括と取り組み状況

2024年度の中間期総括と通期期見通し

- ▶ 当社独自のクラウドサービスの開発やAIロボット、デジタルヘルスケア関連商材の立ち上げを推進
- ▶ 先行投資段階であり採算確保は次年度以降にずれ込み、中計目標は未達の見通し

取り組み状況

- ▶ Nuwa Robotics社製AIコミュニケーションロボットの積極的な販促活動を展開
- ▶ 空間伝送型ワイヤレス電力伝送システム「Cota Real Wireless Power™」の当社オリジナル評価キットを開発
- ▶ Clarius社製ハンドヘルド型汎用超音波画像診断装置の販売開始
- ▶ スタートアップ企業発掘のため、SBIデジタルスペースファンドへ出資

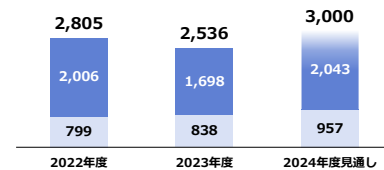
課題と対応策

- ▶ 多様な顧客ニーズへの対応
 - ・ 顧客や社会課題の解決を図るユースケースの開発を促進
- ▶ 高付加価値商材・サービスの発掘
 - ・ ファンド出資を通じた有望なスタートアップ企業の発掘・協業を加速



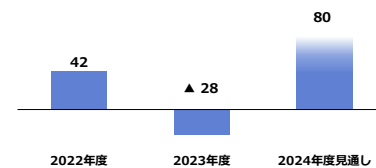
売上高推移

(百万円) ■ 上期 ■ 下期 中計目標 40億円



営業利益推移

(百万円) ※通期



© 2024 MARUBUN CORPORATION

25

ソリューション事業については、当社独自のクラウドサービスを開発し顧客に提供するとともに、AIロボットやデジタルヘルスケア関連商材の立ち上げを進めております。

しかしながら、現在は先行投資段階にあり、採算確保は次年度以降にずれ込み、中期経営計画目標は未達となる見通しです。

当社グループの第3の柱としての事業収益化に向けて一層注力すべく、AIコミュニケーションロボットの積極的な販促活動や当社独自のワイヤレス電力伝送システムの評価キットの開発など、価値創出に向け、取り組みを進めております。

今年3月から取り扱いを開始したNUWA Robotics社のAIコミュニケーションロボットについては、マーケティング活動を通じて潜在的な市場期待の高さを感じており、拡販を進めつつ、お客様のニーズに応じた機能開発を進めております。

またデジタルヘルスケアの分野では、カナダのヘルステック企業であるClarius社の超音波画像診断装置の販売を開始しました。

この商品は、iOS（アイオーエス）やAndroid デバイスとワイヤレス接続できるポケットサイズの端末で、最高クラスの画質や直感的なタッチ操作などユニークな機能を備えており、販売発表後から数多くの引き合いをいただいております。

また、10月にはSBIインベストメント社が運営する「SBIデジタルスペースファンド」への出資を行いました。

このファンドは、「ロボティクス」「AI・ビッグデータ」「ヘルスケア」などを主な投資対象領域としており、当社は本ファンドの出資を通じて、有望なスタートアップ企業をいち早く発掘するとともに、協業によるオープンイノベーションを加速させ、新たなソリューションの開発、新規事業の創出につなげていきたいと考えております。

ソリューション事業では、今後も多様化する顧客ニーズや社会課題の解決につながるユースケース開発を推進するとともに、優れた機能を有する商材・サービスの発掘を行ってまいります。

以上、3事業セグメントの進捗状況についてご説明いたしました。

「MARUBUN REPORT 2024」発行

▶ グループ初となる統合報告書「MARUBUN REPORT 2024」を発行



「テクノロジーで、よりよい未来の実現に貢献する」ための
丸文グループ独自の
価値創造モデルやバリューサイクルの強みを紹介



中長期的な企業価値向上に向けたCEO・CFOのメッセージや
各事業の事業戦略、環境・社会・人的資本など
当社グループの幅広い取り組みを掲載



当社[ウェブサイト](#)よりご確認ください

今後も開示情報の充実を図りつつ、ステークホルダーの皆さまとの対話を促進



© 2024 MARUBUN CORPORATION

26

最後になりますが、当社では10月に株主・投資家の皆様をはじめとしたすべてのステークホルダーの方々に向けて、グループ初となる統合報告書を発行し、当社ウェブサイト上にも掲載いたしました。

創業から180年の歴史を積み重ね、事業を進化させてきた当社ならではの「価値創造モデル」をご紹介するとともに、社長就任から今日（こんにち）に至るまでの私の想い、サステナビリティや人的資本といった側面からの取り組みや活動も掲載しております。また、丸文財団を通じた学術支援など社会とのかかわりについても記事化するなど、内容は多岐にわたりますが、ぜひ、ご一読いただければ幸甚に存じます。

特に「価値創造モデル」については、商材や技術の「発掘・開発」に始まり、各種の商社機能を通じて、「情報生産」に至るまでの当社ならではの「バリューサイクル」をその中心に掲げています。

このモデルから生み出される当社の社会的価値や経済的価値を表すとともに、バリューサイクルにおける当社の強みや取り組みをわかりやすく表現しました。当社はこの価値創造モデルを力強く循環させることで、企業価値を向上しつつ、豊かで持続可能な社会の発展に貢献してまいります。

また、サステナビリティ経営の観点では、当社が優先的に取り組むべき重要課題として5つのマテリアリティと13のキーテーマ、そして、それぞれのキーテーマにかかわる長期の状態目標を規定しました。

今後は、価値創造モデルの運営とサステナビリティ経営の推進に注力しつつ、これと整合的となる、次期中期経営計画の策定にも着手する所存です。

今後とも当社グループは開示情報の充実を図りつつ、ステークホルダーの皆さまとの対話を促進してまいりますので、ぜひ忌憚のないご意見・ご感想も頂戴できればと存じます。

皆様におかれましては、今後とも変わらぬご支援を賜りますようお願い申し上げます。

私からの説明は以上となります。ご清聴ありがとうございました。

Proven Sustainability

180th

 Marubun Since 1844

参考資料

© 2024 MARUBUN CORPORATION

企業概況

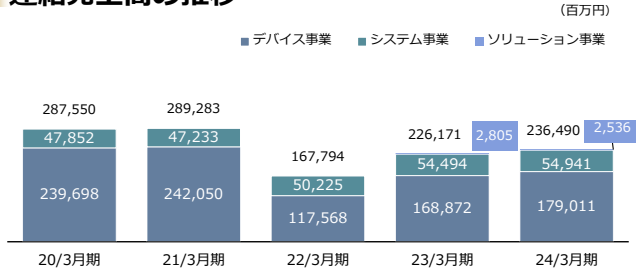
会社概要

創 業	1844年（弘化元年）
設 立	1947年（昭和22年）7月
所 在 地	東京都中央区日本橋大伝馬町8番1号
資 本 金	62億1,450万円
決算期日	3月31日
代 表 者	代表取締役社長 飯野亨
売 上 高	連結 236,490百万円（2024年3月期） 単体 180,265百万円（2024年3月期）
従業員数	連結 1,167名（2024年3月末） 単体 615名（2024年3月末）
株式上場	東京証券取引所 プライム市場 （コード:7537）

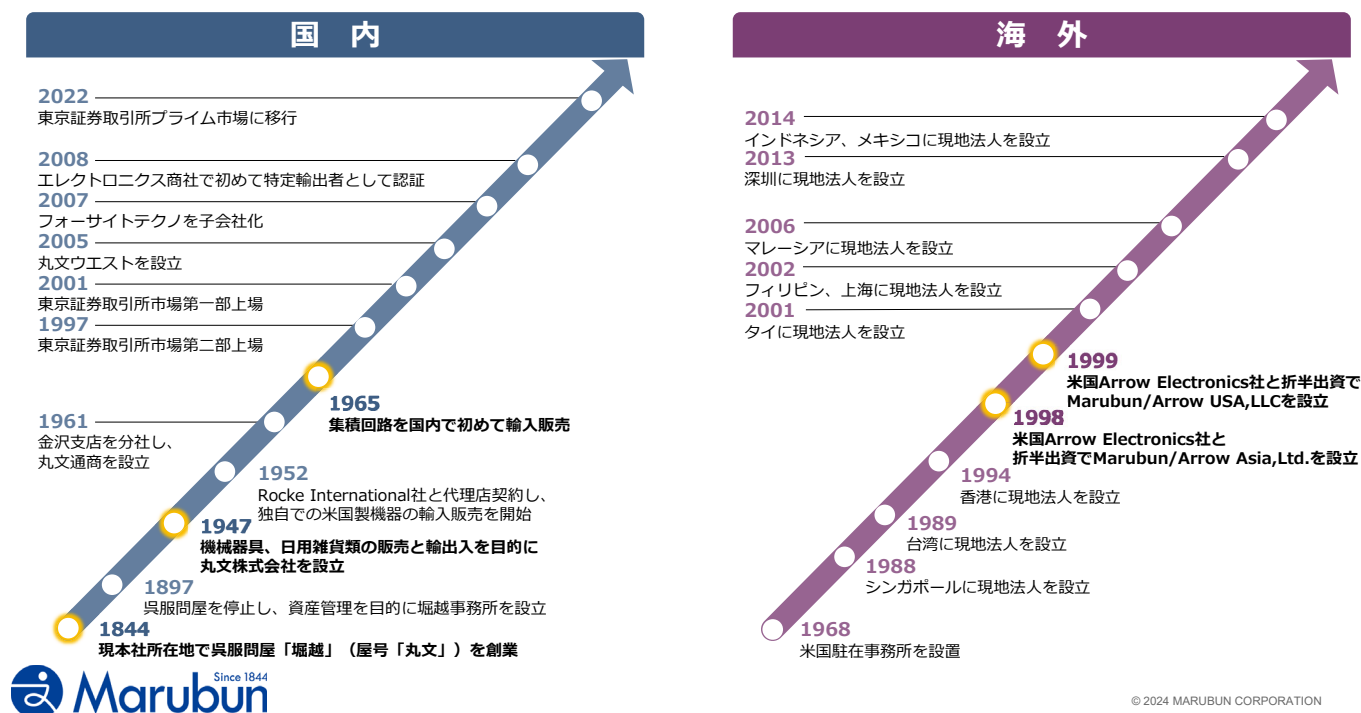
事業領域

デバイス事業	システム事業	ソリューション事業
■ 半導体 ■ 電子部品	■ 航空宇宙機器 ■ 産業機器 ■ レーザー機器 ■ 医用機器	■ ICTソリューション ■ AI・ロボティクス

連結売上高の推移

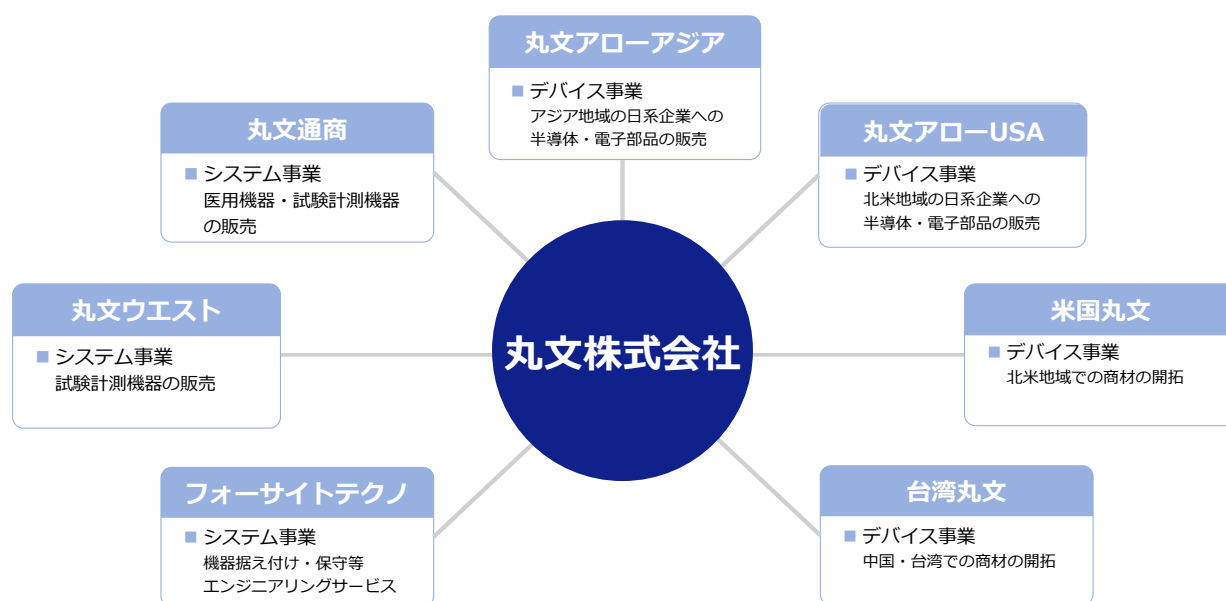


沿革



2

関係会社

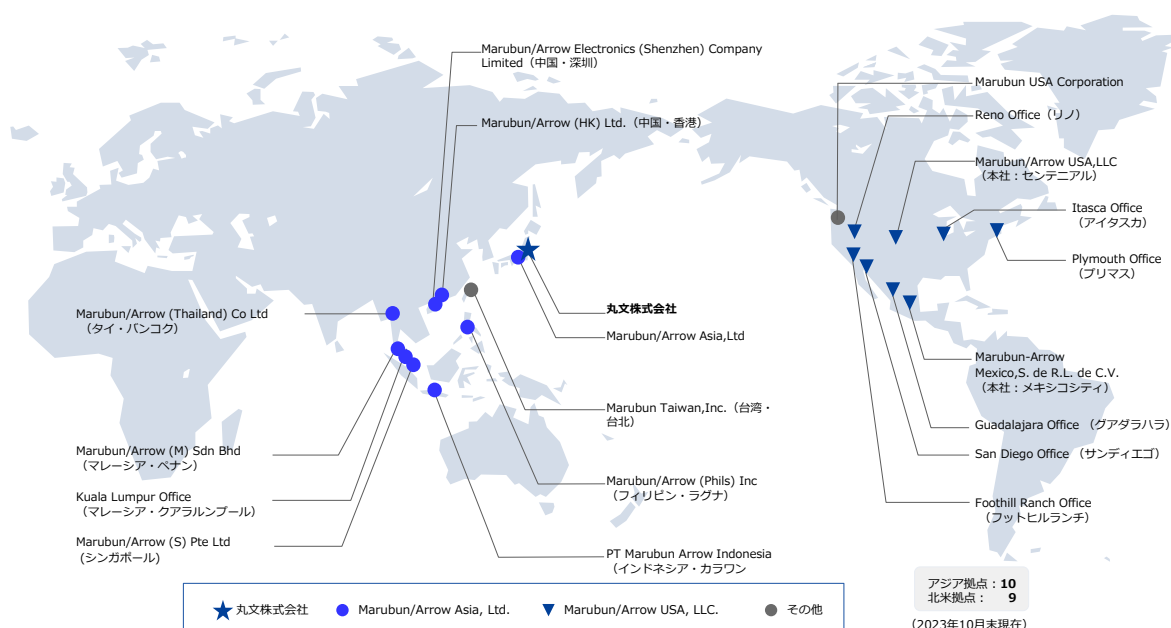


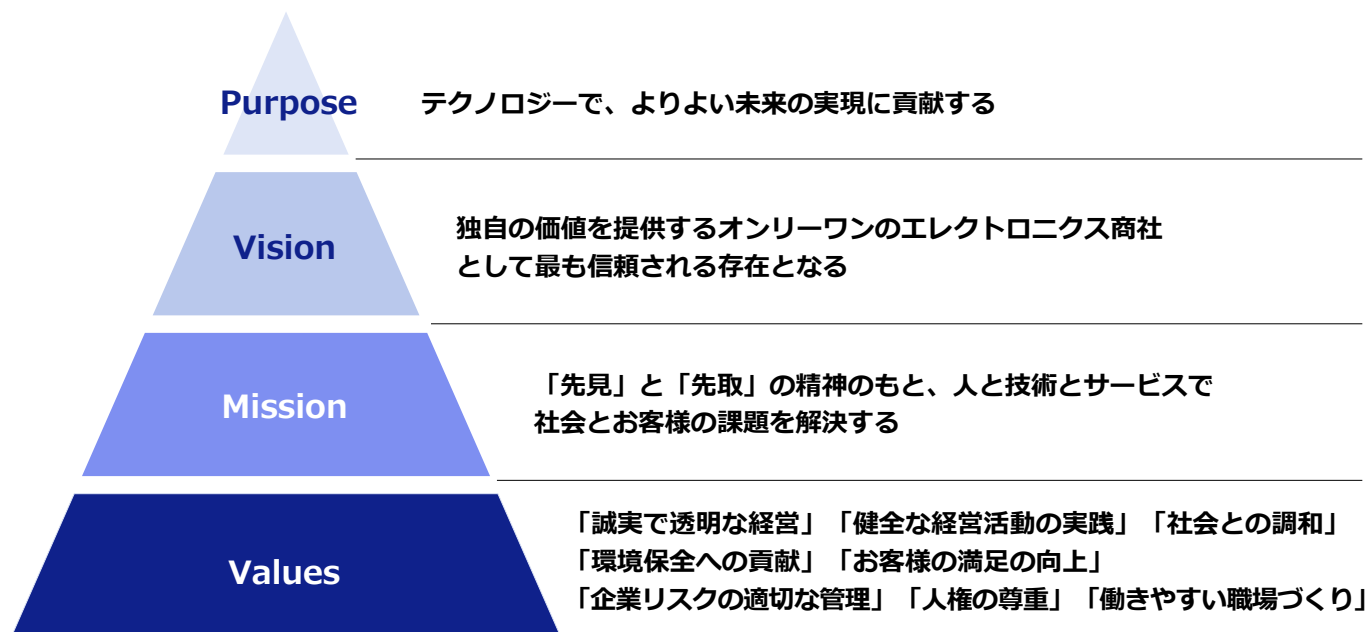
3

国内拠点

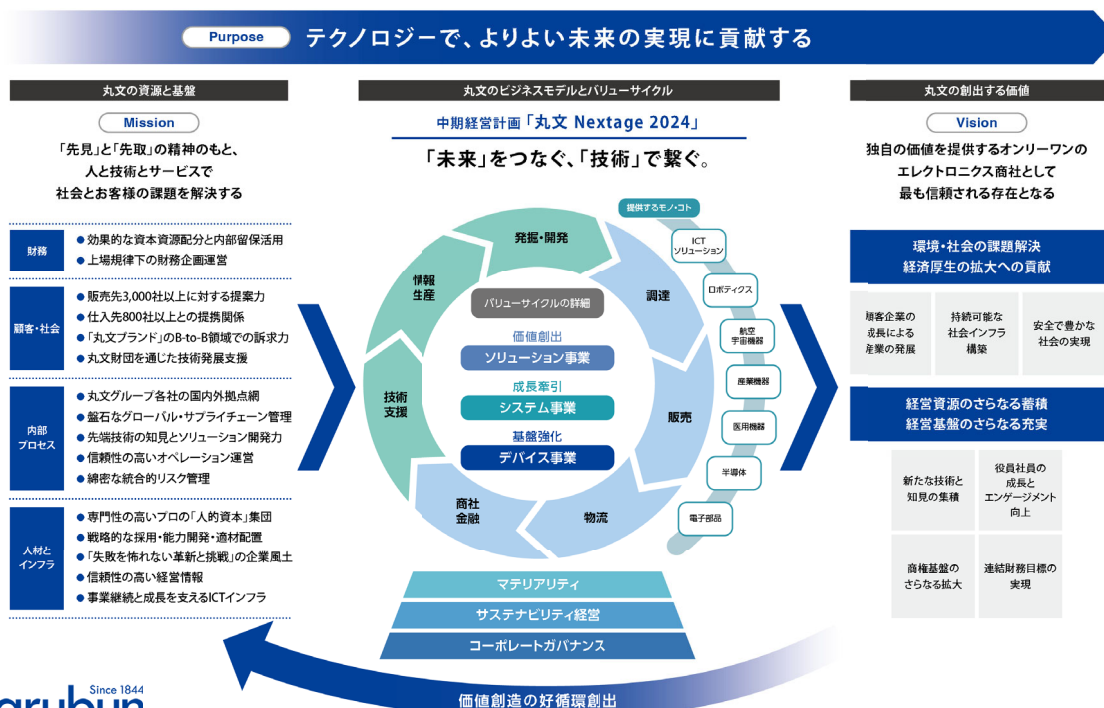


グローバルネットワーク

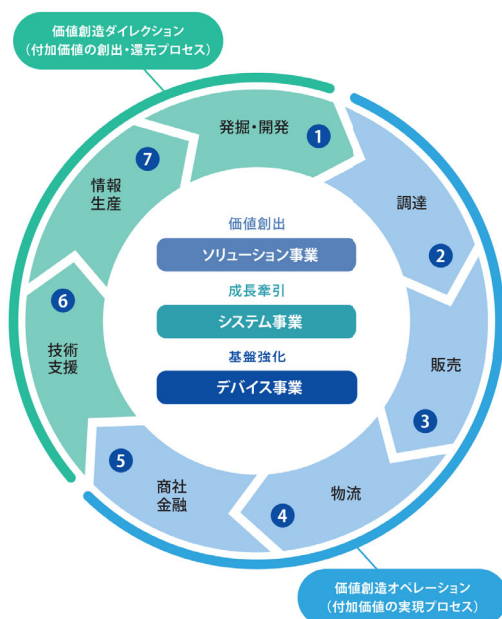




丸文グループの価値創造モデル



バリューサイクル



① 発掘・開発

創業時から継承されてきた「先見」と「先取」のDNAに基づく目利き力で、最先端の優れた製品・技術・サービスを発掘し、いち早くお客様に提供しています。事業のさらなる発展につなげるため、事業買収やベンチャー投資などの事業投資も行っています。

② 調達

800社以上の仕入先の製品・サービスを取り扱い、戦略的なパートナーシップのもと、お客様が求める商材を世界中からタイムリーに調達しています。日々変化する多様なニーズに応えられるよう、調達ソースの拡充・拡大に取り組んでいます。

③ 販売

カスタマーファーストの精神でお客様に寄り添い、高付加価値の商品・サービスを販売しています。また米国との提携によるグローバル販売網を通じて、現地での部材調達、生産移管サポートを行っています。

④ 物流

高度な物流管理システムにより効率的で正確なデリバリー体制を確立しています。適切な含有化学物質管理などにより製品の安全性を確保するとともに、特定輸出者の認証を受け、迅速な輸出入業務、ジャストインタイムの納入を実現しています。

⑤ 商社金融

これまでに培った信頼と資金調達力を強みに、仕入先とお客様との間に立つて、企業間信用をもとにした取引を行っています。緻密な資金管理と与信管理で財務リスクを低減し、自己資本の適正水準維持により、事業の継続性を担保しています。

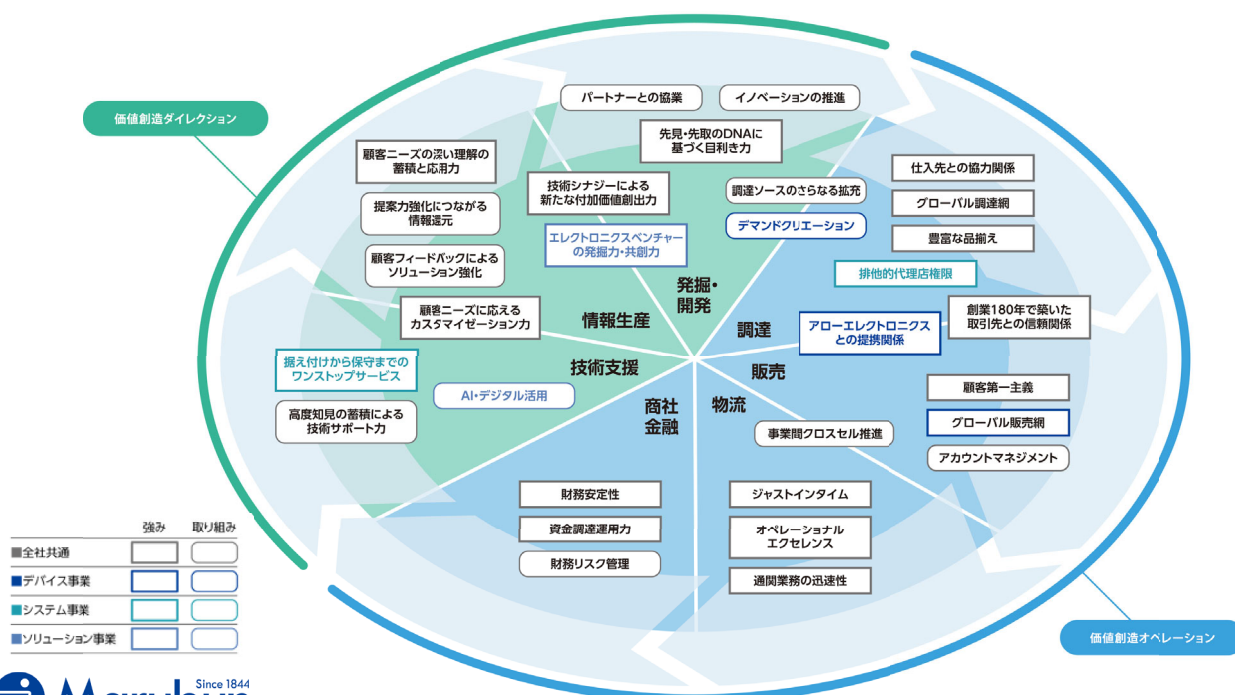
⑥ 技術支援

専門の技術サービス部門やエンジニアリングサービス会社を有し、機器の導入から据付・保守までワンストップのサービスを提供しています。またお客様のニーズに対応し、複数の機器や部品、ソフトウェアを組み合わせ、最適なシステムを提案しています。

⑦ 情報生産

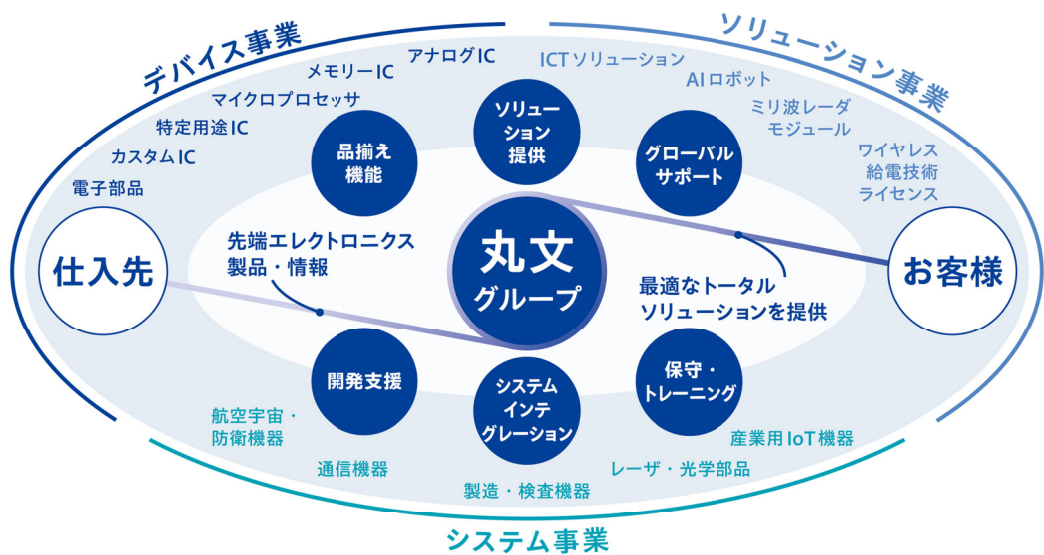
最先端の技術情報をお客様に提供するとともに、販売活動やエンジニアリングサービスを通じて得られた情報をもとに、社会やお客様が抱える課題、予見されるニーズを分析・把握し、新たなソリューションやビジネスモデルの創出につなげていきます。

バリューサイクルにおける丸文グループの強み・取り組み



事業内容

- ▶ 丸文の「6つの機能」が仕入れから運用までフルサポート
- ▶ エレクトロニクス商社として、「お客様のメリットに直結するソリューション」を最適な形で提供



デバイス事業：主要取扱い製品

品目 Item	半導体							
	アナログIC	メモリーIC	マイクログプロセッサ	特定用途IC	カスタムIC	電子部品	電子機器	その他
	標準アナログ、センサー、 ディスクリット	フラッシュ、 DRAM	MPU、MCU、 DSP	ASSP、LED	カスタム、 ASIC、FPGA	ディスプレイ、水素圧動子、 コネクタ・スイッチ・基板	IoT機器、 医療機器	パワーサプライ、ボードPC、 ソフトウェア、IPライセンス
エイブリック	●	●						
Allegro MicroSystems	●			●				
Analog Devices	●		●	●		●	●	
旭化成エレクトロニクス	●		●	●	●			
ATP		●						
Broadcom	●			●	●		●	●
Etron		●						
ELAN			●	●			●	
eVis3D				●				
Genesys Logic				●				
GOWIN				●	●			
Infineon Technologies	●	●	●	●				
ISSI	●	●		●				
Microchip	●	●	●	●	●	●		
Molex						●		
MPS※	●							
PixArt				●				
Nuvoton	●		●	●	●			
Qorvo	●		●	●	●			
REFOND				●				
SEMTECH	●			●				
セイコーエフソン			●	●	●	●	●	
Semikron Danfoss	●							
Synaptics			●	●				
TE Connectivity	●					●		
Telit						●		
VISHAY	●			●				●
Western Digital		●						
WolfSpeed	●							

※：Monolithic Power Systems, Inc.

システム事業：主要取扱い製品

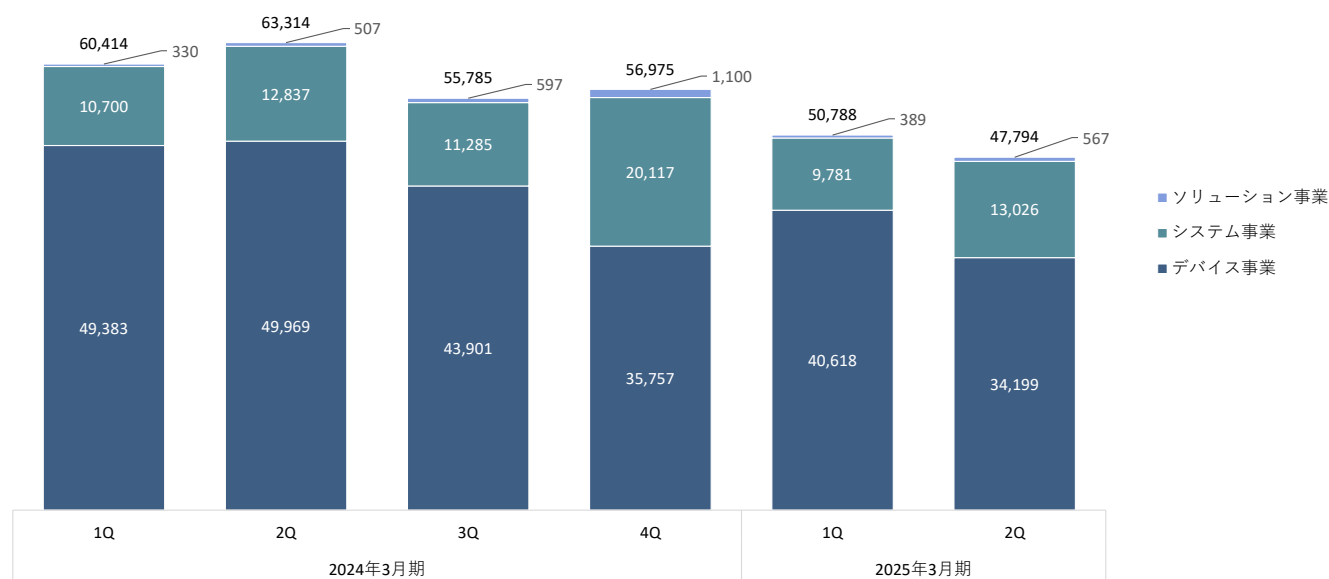
分野	主要商品	主要仕入先
航空宇宙機器		
航空関連機器	電磁波情報収集機材、レーダーシステム、ホアサイト整備機材、 テレメトリ受信・変復調装置、データ収録装置、アンテナ、耐環境ディスプレイ フライト/ノドライビングシミュレータ、係留型飛行船	SAAB AB, Textron Systems, L3Harris Technologies Telemetry & RF Products, Communication & Power Industries Systems Engineering & Management Company, ScioTeq bvba, TREALITY SVS Belgium BV, Ansible Motion, Raven Aerostar
宇宙関連機器	宇宙用高信頼性部品及びコンポーネント、光学エンコーダ、各種ボード機器	Comtech Mission-Critical Technologies, Sensitron Semiconductor, Syrinks, BEI Precision Systems & Space, Aitech Defense Systems, STMicroelectronics
高周波電子機器	クライストロン、進行波管、増幅器、アンテナシステム、 導波管及び同軸コンポーネント、電力計、周波数コンバータ	Communication & Power Industries, Bird Electronic, Work Microwave GmbH
計測機器、各種センサー	各種センサ（加速度、圧力、荷重、マイクロフォン、角速度、変位）、近傍スイッチ データ収録解析装置、衝突試験用ハニカムバリア、部分放電監視機、多機能測定器	ENDEVCO、日本ベーカーヒューズ (Baker Hughes)、日本ハネウェル ジャパン (Honeywell Japan)、DTS, G.R.A.S. Sound & Vibration A/S, mg-sensor、電子応用 (Applied Electronics)、PLASCORE, IRIS Power, Liquid Instruments
産業機器		
検査装置	3次元X線検査装置、ロックイン発熱解析装置、Wafer検査装置、 自動検査システム、光学式燃焼解析センサー、高分解能分光器	ユー・エイチ・システム (U.H.SYSTEM)、日本エフイー・アイ (FEI Company Japan)、日本ベーカーヒューズ (Baker Hughes) ハイメック (HIMEC), LaVision
製造装置・組立装置	電子部品組立装置、温度特性検査装置、精密接合装置、 大気圧プラズマ表面改質装置	アキム (Akim)、山岡製作所 (YAMAOKA SEISAKUSHO)、日本アビオニクス (Nippon Avionics), FUJII, HELLER Industries, SET
組み込みソリューション	BUS型CPUボード、各種PCボード	ADLINK TECHNOLOGY, ASUS IoT, AAEON, AVALDATA, ASRock, DFI, TechNexion, SMART Embedded Computing, Aitech Systems
レーザー機器		
レーザー発振器・レーザー加工機	高出力半導体レーザー、産業用ファイバーレーザー、産業用フェムト秒レーザー レーザー加工装置	nLIGHT, Laserline, Amplitude, NUTECH, FUTONICS, Scansonic OPTICAL ENGINES
光源、光学部品・モジュール	LED、半導体レーザー、フラッシュランプ、キセノンランプ、各種センサ、光学モジュール 光源装置	Excelitas Technologies, Luminus Devices, TE Connectivity(First Sensor), Young Optics, VIALUX, Visitech Engineering, United Power Research Technology
医用機器		
画像診断機器	MRI、CT、DR/X-ray、超音波診断装置	島津製作所 (Shimadzu)、シーメンスヘルスケア (Siemens Healthcare)、コニカミノルタジャパン (Konica Minolta Japan) 富士フイルムヘルスケア (FUJIFILM Healthcare)
人工透析機器	人工透析装置、ダイヤライザー、血液浄化システム	日機装 (Nikkiso)、旭化成メディカル (Asahi Kasei Medical)、カナカメディックス (Kaneka Medix)
臨床検査機器	臨床検査機器	シーメンスヘルスケア・ダイアグノスティクス (Siemens Healthcare Diagnostics)、ベックマンコールター (Beckmancouiter)

ソリューション事業：主要取扱い製品

分野	主要商品	主要仕入先
ICT ソリューション ICT Solutions		
ICT ソリューション	RF・IP通信、衛星測位、ネットワーク同期、セキュリティ、IoT	Microchip Technology, Spirent Communications, HUBER+SUHNER Polatis, Coherent, Calnex Solutions, PCTEL, Accedian, Ranplan Wireless, Bristol Instruments, Septentrio, Pendulum, EXFO
AI・ロボティクス AI・Robotics		
AI・ロボティクス	ヒューマノイドAIロボット、AIコミュニケーションロボット	Aeolus Robotics, NUWA Robotics
先端ソリューション		
先端ソリューション	ミリ波レーダモジュール、カーボンナノチューブ、ワイヤレス給電技術ライセンス、フレキシブル基 板、光通信IC/モジュール	エスタカヤ電子工業 (Stakaya), Acconeer, Nanoramic, OSSIA, エレファ ンテック (Elephantech), Silicon Line
医療機器		
医療機器	電子聴診器、単回使用パルスオキシメータプローブ	StethoMe, Honeywell Healthcare Solutions

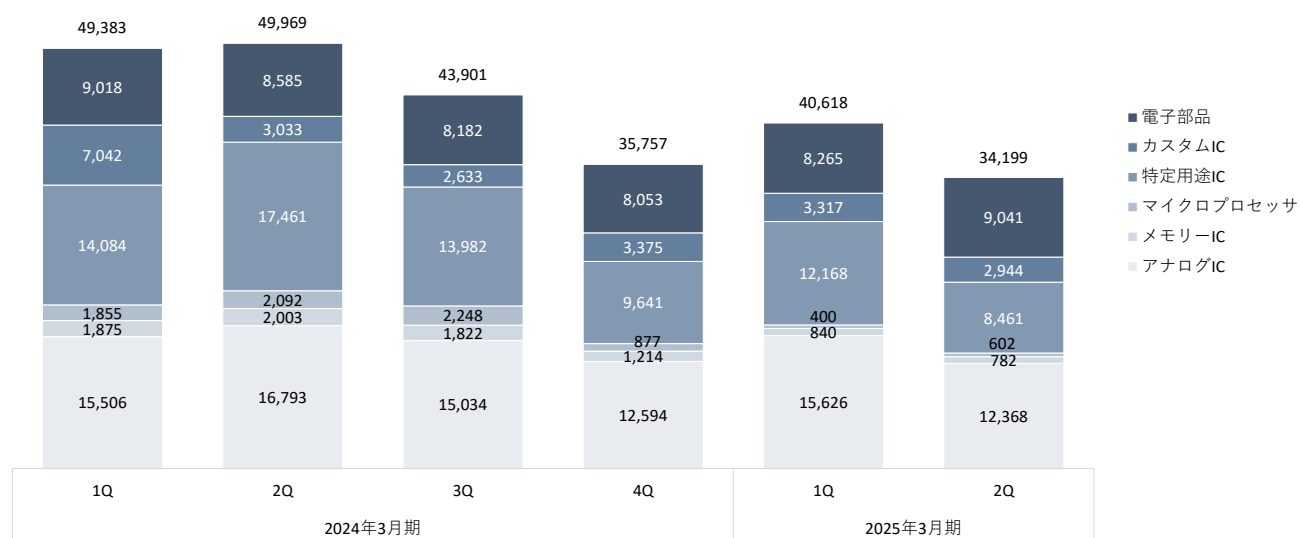
業績四半期推移（事業別売上高）

（百万円）



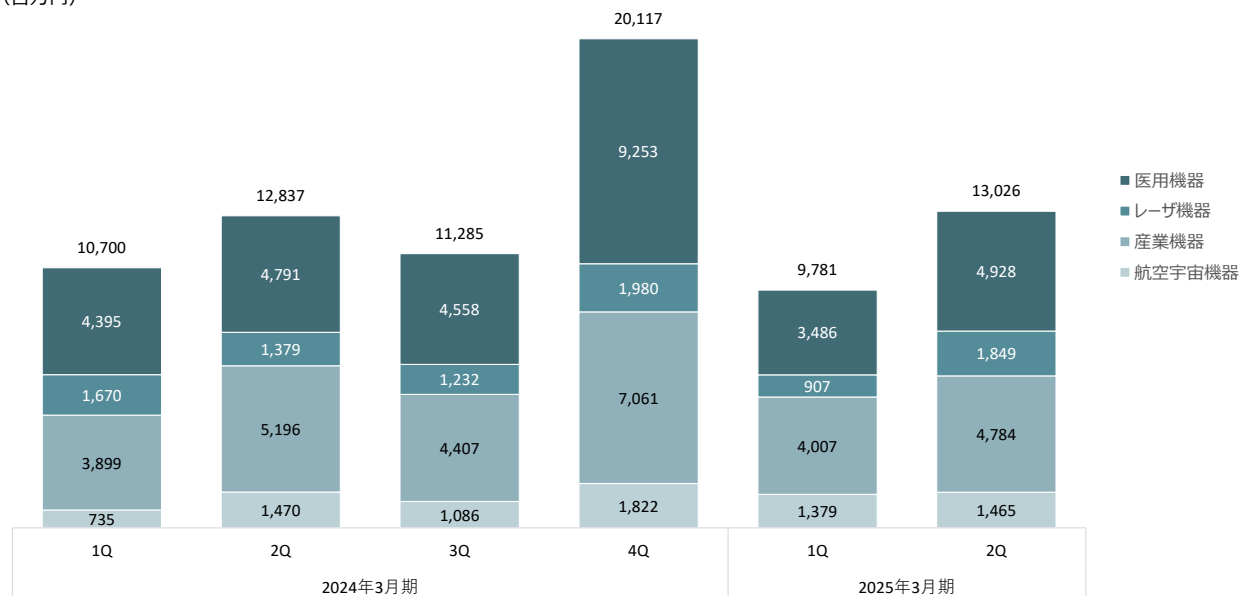
業績四半期推移（デバイス事業：品目別売上高）

（百万円）



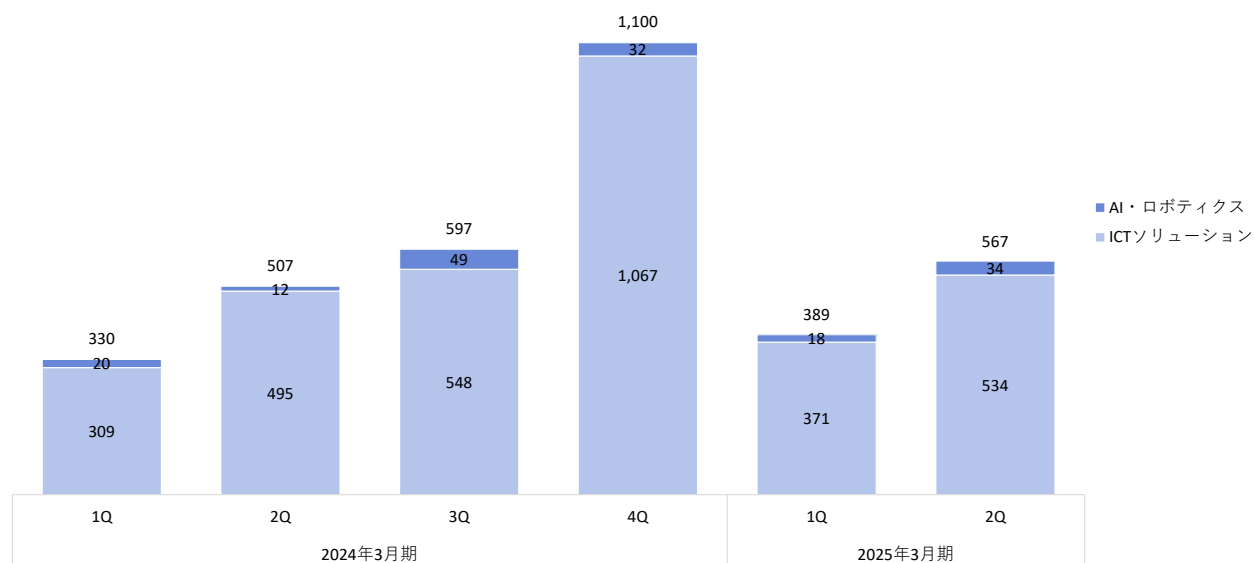
業績四半期推移（システム事業：品目別売上高）

（百万円）



業績四半期推移（ソリューション事業：品目別売上高）

（百万円）





本資料お取扱い上のご注意

本資料に記載されている業績予想等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な重要な要素により異なる可能性がありますことをご承知おきください。

本資料に関するお問い合わせ

丸文株式会社 経営企画部

E-mail : ir@marubun.co.jp